

現代の一休さん計画

同志社大学 真山ゼミ B チーム

1・はじめに

重要視したのは「京田辺市の文化財の将来」。この点を第一に考え、なおかつ京田辺市の特徴も活かしつつ政策を考えた。京田辺市は自然豊かなまちで、観音寺や一休寺のように、文化財自体もその豊かな緑に囲まれた静けさを持つという魅力がある。

➡しかし、現状はこれを活かすできていない！！

2・京田辺市の文化財が抱える諸問題

➤ 市の公表するグラフによると、歴史的資源に恵まれているという項目の数値が7%ととても小さい。

→しかし、京田辺市自体には50を超える文化財があり、魅力そのものがないということは考えにくい＝つまり、これは市民の文化財に対する関心が薄いのではないか？

➤ もう一つ、私たちが注目したのは年齢層です。京田辺市には郷土史会という京田辺の歴史研究、文化財保護を行っているボランティア団体があります。その会員数は680名ほどなのですが、そのほとんどが年配の方＝これは逆に言えば、若者は文化財に興味関心が低いのではないか？

しかし、将来文化財を守っていくのは若者。若者の興味関心が低いことは、京田辺市の文化財の将来にとって問題である。

➡さらに、学習機会の提供と拡充は教育委員会の生涯学習推進基本計画でも重要施策とされている。「生涯学習」とは、人々が生涯に行うあらゆる学習のこと。そして、それには地域の歴史や文化を学ぶことも含まれている

➡つまり、若者の文化財の興味関心の低さは、この生涯学習施設の整備不十分が問題ではないかと私たちは考えた。

✧ **この問題に文化財を活用し解決して、最終的に将来の文化財の担い手を育成することが理想の文化財活用の形だと思われる。**

3・現代の一休さん計画

一言でいうと、文化財を子供たちの学習の場として活用しようという政策です。今回私たちはその学習の場を寺子屋と名付けました。

～概要～

ターゲット：主に小学生の子供たち→お寺のお堂などに集めて文化学習を行う
お寺を学習の場として使うことメリットは、実際それを目の前に肌で感じることで、子供たちは文化財により親しみを持たせることにある。

学習内容：。ここで私たちが言う文化学習とは、文化財やそれらにかかわりのある伝統、歴史について学ぶこと。

どのように学ぶかという体験形式での学習内容案。ここでさらに、生涯学習施設ということで、現在、京田辺市の小学校では主に共働きの子供たちを対象として放課後学習を行っているところがあり、その学習の場として寺子屋を活用する。また、寺子屋では子供たちに文化学習だけでなくそのほかの学習指導も行う。

→ 一休寺などは大人数の収容スペースを持ち交渉次第では十分に実現可能

- スケジュールは閉館後 17 時の場合、最初の一時間は体験学習、後半の一時間は学校の学習アドバイスなどの文化学習以外の学習をするなどし、文化学習の内容はサイクル的にやっていたらサポートの方にも来ていただきやすくなり、継続もより容易になる。さらに、市民と協力することでより効果的な政策が実行の期待ができる。文化団体は、郷土史会や大住隼人舞保存会など地域の文化財保護などに携わっている文化団体に学習のサポーターとして来ていただき、これに加え歴史や美術を研究する学生サークルにも協力を依頼すればより学習が充実するのであろう。

→このような方々の協力によって住民間や大学とのつながり強化が狙える。

4・まとめ

今回のこの政策では、教える側の大学生や留学生も文化財に触れることができる点、さらにこの政策を行うことのメリットは新たに施設を作る必要がないということです。結果として市民は小さいころから本物の文化財と触れ合うことで、知識の他に文化財への親しみ、興味が湧きます。これは将来の文化財の担い手を育成するという意味でも効果的だと考えられます。京田辺の文化財は緑の豊さと静けさの中にあり勉強に適している場所です。また多くのお寺のお堂は、もともと人が集まるための環境も整備されていると考えられます。今回今日的活用策として、文化財をよく使われる観光ではなく、福祉教育分野で活用しました。このような新たな活用によって知力あふれる京田辺市民が育ち、今日だけではなく明日の文化財の活用策を生むための一歩になればと思います。この政策を提言いたしました。